

彙報

法華經文化研究所（安田治樹所長）では、平成三十年度において以下の活動を行った。

法華經総合研究会（佐野靖夫研究主任）では、時代の要請に即した総合・包括的法華經基礎基盤研究のため次世代型グラフィカルテキストデータベースシステムの構築を継続的に推進してきた。これにより、高麗藏『妙法蓮華經』、宋・思溪藏『妙法蓮華經』、金藏・中華大藏經所収『妙法蓮華經』の一字画像データ化の完成をみた。本年度は佐野靖夫研究主任による事業報告書の作成準備が進められた。なお、一經二十八品がまとまった形態で現存する最古の漢訳法華經たる中国・房山石經『妙法蓮華經』、および巻単位で現存する奈良写經『妙法蓮華經』の一字画像データ化に試行的に取り組んでいるが、この度、本研究課題は一旦総括し報告を公表することと決したため、上記試行的作業については将来における検討課題となった。

法華經文化研究所では、仏教の東西伝播に関わる歴史文化の諸相解明を目的として、ことに中央アジアの西トルキスタン（トランスオキシアナ）地域での発掘調査の可能性を探るため、立正大学ウズベキスタン学術調査隊（安田治樹調査隊長）を組織し、特別講演会、現地調査、調査報告会を以下の通り行っている。

平成二十六年度は、立正大学ウズベキスタン学術調査隊が正式に組織され、続いて立正大学とウズベキスタン科学アカデミー芸術研究所間の学術

協定が締結、四十二日間にわたり、ウズベキスタン共和国スルハンダリヤ州テルメズ市郊外カラ・テペ遺跡及び同国の関連仏教遺跡並びに博物館、美術館にて、六名の隊員による調査を行った。

平成二十七年度は、前年度に続く第二次調査として、大規模な仏教伽藍遺跡カラ・テペ遺跡北丘において十名により発掘調査を行った。

平成二十八年度の第三次調査隊は、九月二日からウズベキスタン共和国スルハンダリヤ州テルメズ市郊外のカラ・テペ遺跡、および同州内の都城・仏教寺院遺跡において歴史的・地理的調査を行った。また翌平成二十九年三月には、テルメズ郊外のズルマラ仏塔址で気象観測機器の設置およびスルハンダリヤ州内の仏蹟調査を行った。

平成二十九年度は、九月から十月にかけて法華經文化研究所所員・特別所員のほか数名の隊員を現地に派遣して発掘調査を行ったほか、三月にはズルマラ仏塔址での発掘予備調査と気象観測データの採取にあたった。なお同年度の調査報告会を法華經文化研究所、立正大学仏教学部・文学部 共催で二月に行った。

本年度は、平成二十六年度にはじまる立正大学ウズベキスタン学術調査隊の最終年度調査として、報告書出版に向けてウズベク側との協議にあたることも、九月にはズルマラ仏塔址で、テルメズ大学と共同して予備調査のトレンチを掘削した。併せて本事業が文部科学省の私立大学ブランドディング事業に採択された事業展開を踏まえ、本学教員（文学部・渡邊裕美子教授、仏教学部・安田治樹教授）による日本文化への理解を求める講演会を同月にタシケント市とテルメズ市で開催した。十一月には、カラ・テペ遺跡調査の総括と、本学のウズベクでの事業につき広く宣伝することを目

的として、ウズベクから研究者五名を招聘し、以下の通りシンポジウムを開催した。

文部科学省選定「私立大学ブランドディング事業」立正大学ウズベキスタン学術交流プロジェクト・シンポジウム「シルクロードの歴史・考古・美術」日 時・平成三十年十一月二十三日（金・祝）十時三十分～十七時五十分

会 場・立正大学

品川キャンパス石橋湛山記念講堂

講演者・シヤキルジャン・ピダエフ

（ウズベキスタン科学アカデミー芸術学研究所）

パホテイル・トウルグノフ

（ウズベキスタン科学アカデミー芸術学研究所）

ジャンガル・イリアソフ

（ウズベキスタン科学アカデミー芸術学研究所）

ゼブニン・アリマルドノヴァ

（ウズベキスタン観光発展国家委員会）

宮治 昭（名古屋大学）

安田治樹（立正大学）

平成三十年度は三月に外部協力者の支援を得てズルマラ仏塔址の建築構造的調査、地質学的調査を実施する他、前年同様日本文化紹介のための現地の講演を今回は経済学部と心理学部の協力を得てタシケントとテルメズで開催。なお二月二十六日に本年度の調査報告会を外部協力者の加藤直子（国士館大学イラク古代文化研究所）氏、アケマル・ウルマソフ（ウズベキスタン科学アカデミー芸術学研究所）氏の講演と併せて行った。

本年度の法華經文化研究所研究例会の第一回（平

成三十年六月六日)は、本研究特別所員・神戸女子大学瀬戸短期大学名誉教授 岡田行弘先生による「大乘經典における新たな仏の創出」と題する発表講演がなされた。

第二回(平成三十年七月四日)は、本研究所有長・本学仏教学部教授 安田治樹先生による「アルダシール一世以降のガンダーラ・トハリスターン」と題する発表講演がなされた。

第三回(平成三十年十月三日)は、本研究特別所員・駒澤大学仏教学部教授 奥野光賢先生による「法華論」をめぐる諸問題」と題する発表講演がなされた。

第四回(平成三十一年一月九日)は、本研究所有員・本学仏教学部長 寺尾英智先生による「近世における鎌倉の日蓮聖人霊跡について」と題する発表講演がなされた。

記録。平成三十年九月一・二日の両日、第六十九回日本印度学仏教学会(於東洋大学)。平成三十年九月四・五日の両日、日本佛教学会第八十八回学術大会(於同朋大学)。平成三十年 九月七・八・九日の三日間、第七十七回日本宗教学会(於大谷大学)。平成三十年十一月九・十日の両日、第七十一回日蓮宗教学研究発表大会(於日蓮宗宗務院)が開催された。また、その席上において「仏教文化学術賞」の表彰式が執り行われた。本年度の受賞者は本研究特別所員桐谷征一氏(『房山石経妙法蓮華経』)に決定した。

法華経文化研究所第一回研究員研究生研究会
(平成三十年六月二十七日)
浅野 学(研究生)
「円珍『法華論記』における『六祖壇経』の依用をめぐって」

法華経文化研究所第一回研究員研究生研究会 (平成三十年十月三十一日)

- 岡田文弘(研究員)
- 「鎮源『法華験記』と宗性『弥勒如来感応抄』」
- 西沢史仁(研究員)
- 「チベットにおける中観思想の形成とその歴史的展開に関する一考察」
- 小山俊介(研究生)
- 「大仏造像に関わる所依經典―弥勒大仏を中心に―」
- 日比宣仁(研究生)
- 「灌頂による七種二諦説の展開―後代の学匠を中心として―」

法華経文化研究所役職員(平成三十年度)

- 枢機顧問 菅野日彰 内野日総 中川法政
- 久保継成 竹内日祥 庭野日鑑
- 顧問 伊藤瑞叡 冠 賢一 小松邦彰
- 坂詰秀一 坂輪宣敬 佐々木孝憲
- 仲澤浩祐 原 実 松村壽巖
- 参 与 三友健容 宮川了篤 渡邊寶陽
- 塩田義徹 松永慈弘 松井大英
- 北山孝治 大場正昭 木村吉孝
- 木内隆志
- 所 長 安田治樹
- 副所長 秋田貴廣
- 所 員 秋田貴廣 安中尚史 庵谷行亨
- 高橋堯英 丹治恭子 手島一真
- 寺尾英智 戸田裕久 則武海源
- 原 慎定 安田治樹
- 秋山光文 アルスグリ・グリ
- 伊加利庄平 池上 悟 池上要靖

研究員

- 石田智宏 板倉聖哲 伊藤瑞康
- 今成元昭 岩田諦静 岩本篤志
- 上田本昌 江川式部 及川真介
- 大森宣昌 岡田行弘 岡田真美子
- 奥野光賢 菊谷定彦 河村孝照
- 菅野龍清 北村行遠 木村中一
- 桐谷征一 金 天鶴 金 炳坤
- 窪田哲正 黒田日出男 桑名貫正
- 積 果暉 近藤信一 阪田正一
- 佐古年穂 笹岡直美 佐々木一憲
- 佐野靖夫 信太 司 柴田寛彦
- 柴田章延 清水海隆 清水要晃
- 下川邊季由 シャンカル・タバ
- 周 柔含 鈴木敏弘 鈴木隆泰
- 関戸堯海 高佐宣長 高寫正人
- 高橋堯昭 高森大乘 田島毓堂
- 丹治智義 池 麗梅 塚田貫康
- 都守基一 時 枝 務 中尾 堯
- 中條暁秀 沼 義昭 野口眞澄
- 野坂知世 野沢佳美 萩原義雄
- 橋岡昭男 浜島典彦 平岡 聡
- 福士慈稔 藤井教公 古庄浩明
- 方 亞平 細谷恵志 本郷孝衣
- 町田順文 町田是正 間宮啓壬
- 丸山孝雄 三友量順 蓑輪顕量
- 三輪是法 村上東俊 村野宣男
- 望月海慧 望月海淑 望月真澄
- 矢放昭文 藪内聡子 山崎守一
- 湯山 明 渡邊彰良
- 井上さやか 岡田 愛 岡田文弘
- 大乘文晴 片山妙晏 神田大輝
- 木村 紫 久保田正宏 佐々木重紀
- 権田ガワン・ウースン 庄司史生

